

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月16日

【評価実施概要】

事業所番号	3671700262
法人名	株式会社 ツツイ
事業所名	グループホーム プラチナ・ヴィラ鴨島
所在地	徳島県吉野川市鴨島町鴨島208 (電 話) 0883-22-3188
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 8月 8日

【情報提供票より】(平成19年 7月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 21人,非常勤 0人,常勤換算	1階7人,2階7人,3階7人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての,	1 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	共益費3,000円・水道光熱費6,300円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	25 名	男性	6 名	女性	19 名
要介護1	6 名	要介護2	10 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.28 歳	最低	72 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人 徳寿会 神島病院	・石田歯科医院
---------	----------------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは国道の沿線沿いに位置し、近隣にはショッピングセンターや飲食店が立ち並び、買い物などの日常生活や交通の利便性に恵まれている。ホームの「ゆっくりにいっしょにたのしく」の方針の基、管理者をはじめ、職員全体の意思疎通が日常的に図られ、利用者も落ち着いた生活を送っている様子がうかがえた。また、様式の見直しや、新しいアセスメント方式の導入を検討されるなど、前向きに質の高いケアを目指す取り組みがみられた。
近隣住民も犬の散歩時に気軽に立ち寄り、犬好きな利用者が心待ちにするなど地域との関係も良好である。
また、系列医療法人との連携により24時間の医療体制も整っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題については、運営理念の周知並びに公表が求められていたが、パンフレットへの記載や掲示などにより改善が見られた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、各ユニットごとのリーダーを中心に実施内容の共通認識を図るため検討会議も開かれ、地域密着型サービスとしてのホームの役割や業務の振り返りを行い、職員全体で理解を深めていこうとする姿勢がみられた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の委員は地元自治会長などで構成されているが、現時点では月次の活動状況報告書を市町村並びに各委員への送付にとどまり運営推進会議の開催には至っていない。行政及び地域包括支援センター職員の参加がされていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>訪問時や電話等の連絡時に家族の意見や希望を聞いており、相談苦情に関する手順、マニュアル、様式などの整備や、意見箱の設置など、積極的に意見・苦情等の聴取に努めている。また、定期的に発行しているプラチナ便りにも家族からの意見・要望を引き出すための広報を行なうなどの工夫がみられる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会への加入はないが、自治会長とは常に連絡をとりホームや地域の行事などの情報交換を常に行い、ホームの役割や利用者に対する理解と協力が得られている。また、地域の小学生との定期的な訪問などがあり、交流が図られている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を念頭に尊厳の保持や自立支援を目指し実践している。	<input type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、各ユニットリーダーを中心に共通認識が図られている。方針は日誌や記録物に明示され、職員への意識付けが図られている。	<input type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入はないが、常に自治会長と連絡をとり、機会を捉えて行事に参加している。また、関連施設のお祭りや、近隣の小学生の訪問などがあり、地域との交流がある。	<input type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットのリーダーが中心となって取り組み、項目の内容把握と今後の取り組みについて、外部評価の結果とともに全職員で計画的に改善する姿勢がみられた。	<input type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは構成されているが、ホームの運営状況や活動についての報告書を送付するのみで会議の開催はなく、意見交換などが行なわれていない。また、行政職員、地域包括支援センター職員の参加がされていない。	○	運営推進会議は利用者・家族・地域の住民の声や関係諸機関からの貴重な意見や要望を引き出す機会でありサービスの質の向上や確保に繋がることや、ホームの認知や周知など広報の場としても重要な役割をもつものであることから、早急な定期開催が望まれる。また、行政職員の参加が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1度、市役所に書面で現状報告を行い連携を深くし協力関係を築く取り組みをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム内に行事の写真や利用者の作品(書道・絵)などを掲示し日常の様子を伝えている。また、家族への来訪時への声かけ、利用者の状況報告を行なっている。金銭管理についても出納帳の出納状況、残高の確認サインがとられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には訪問時に気軽に声をかけ意見が言える雰囲気作りをしている。また、意見箱の設置並びにホーム便りを通じて意見・苦情の引き出しに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職に伴う欠員補充はあるが、ユニット間の異動や事業所の配置転換は行なわれていない。欠員補充の場合は系列グループホームなどから経験者を優先して配置している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員、月一回系列病院で開かれる勉強会に参加している。また、年間研修計画により、県内、県外で開かれる研修会に参加でき体制がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会並びに県内で開かれる各種研修会への参加で、情報の収集や交流の機会に積極的に取り組んでいる。	○	管理者や職員が、グループ内の事業所と毎週情報交換を行なうため訪問するなどの機会を設け、地域同業者との合同研修会の開催や職員の交流を深め、地域全体のサービスの向上に向けて取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用を開始する前に自宅を訪問したり、見学してもらったり、家族から情報を集めたりし、できるだけ早期に馴染みの関係を築けるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の趣味や特技など得意分野の力を引き出すことに留意し、名言を書道で書いてもらったり、日常生活で知らないことを教えてもらえるよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中から日々の暮らしの中で要望を聞いたり、思いや行動から意志等を汲み取り把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族からの希望・要望が出にくいようであり、職員が気づきや情報を持ち寄り、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月毎に見直しを行なっている。様々なケアチェック表を活用しながら、状態の変化や利用者・家族の意見など随時実情に合うよう介護計画を作成している。現在新しいアセスメント方式の導入を検討中であり、よりよい介護計画が期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、看護師の毎日のバイタルチェックにより利用者にとって負担となる受診や入院の予防、回避等を図っている。通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列病院の医師・看護師との連携がとれており、利用者の健康状態を把握して適切な医療の提供に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に利用者・家族と重度化や終末期の方針を話し合い、意思確認をしている。その際事業所が対応できるケアについて了解を得て、個別に対応できる体制になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を傷つけない言葉遣いや個人情報の取扱に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活が豊かで、利用者が張り合いのある1日が過ごせるよう利用者一人ひとりの体調や意向にできるかぎり配慮し取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の中に入り一緒に食事を楽しむ雰囲気作りができています。介助が必要な利用者にはさりげない介助が行なわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日の入浴も可能である。洗身も自分で可能な限り行なってもらえるよう、声かけや対応の工夫をし個々に合わせた入浴支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味活動や掃除、洗濯物たたみなど利用者の力量、関心に応じて役割を持ってもらえるような支援ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ユニットごとやホーム全体での行事、通院などの外出支援はされているが、個々の希望に応じた日常的な外出支援は充分とはいえない。	○	利用者本人・家族等に対し、できるだけ多くの情報提供並びに聴取に努め、利用者の習慣、希望や状態、状況に応じて短時間でも日常的に屋外に出る機会を作り、ホーム内に閉じこもらないような工夫が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通事情から家族に十分な説明が行なわれ了解が得られているが、玄関はオートロックで内からは開錠しなれば出られない。外出希望があれば何時でも職員が開錠するようにしている。	○	家族に説明を行われているが、できるだけ鍵をかけないケアの工夫に取り組んでいかれたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練が実施され、消防署の協力を得て避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を定期的に行なっている。また、災害時の緊急連絡網も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列の栄養士によるバランスのとれた献立で調理され、食事や水分の摂取状況も毎日個別に記録され把握されている。食事摂取量に応じ補食する等の対応も行なわれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく、会話やテレビの音も静かで換気もよく行なわれている。玄関や廊下、壁には季節にちなんだ花などの飾り付けにより季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、ベッドは備え付けになっているが趣味の物、愛用品等が持ち込まれ、その人らしい居室作りがされている。		